

令和6年度 にじいろこども園の取り組みと評価

今年度3か園が合併し、4月よりにじいろこども園として開園しました。にじいろこども園では、子どもの興味や関心に即した豊かな経験ができるよう、職員間で話し合い、研修に努め、教育・保育を行ってきました。今年一年の取り組みを振り返り、成果や課題についてまとめたものをお伝えさせていただきます。

【取り組みと成果】

○子どもの育ちや遊びの中の学びを職員間で伝え合う場を大切にしました。子どもの姿を語り合う場を多くついたり、乳幼児教育保育支援センターの協力を得ながら研修をしたりすることで、職員間で子どもの育ちや保育の楽しさ、保育者の援助の大切さについて共通理解をもつことができ、日々の教育保育につながっていきましました。



○インクルーシブな教育・保育の質の向上を図るため、多文化と医療的ケア児について研修を行いました。お互いの文化を知ることで外国籍児とその保護者に対する理解につながり、多文化を身近に感じながら安心して園生活を過ごすことができるように関わることができました。また、親子で相互の文化に触れられるよう「にじいろまつり」を開催しました。相互の文化に興味関心をもつことができ、お互いを身近に感じる機会になったのではないかと感じています。医療的ケア児の園での生活や保育について看護師が講師となり、職員間で考える機会をもちました。気持ちを表情やしぐさから読み取り、理解することの大切さや言葉掛け、関わり方について学ぶことができ、日々の教育・保育に生かされています。

【保護者支援】

○ICTを活用し、園だよりやクラスだより、ドキュメンテーションや日々の保育の様子を写真を載せて配信したり、個人懇談や保育参加を実施したりすることで、お子さんの成長を伝える場を大切にしてきました。日々の園での生活の様子や遊びの中での学びについて知るきっかけとなり、共に成長を喜び合う機会をもつことができました。

【地域との連携】



地域の方と苗植え

○園だよりを地域の公民館や小学校に発信し、園の取り組みを知ってもらうきっかけづくりになりました。また、地域の方に手伝ってもらい、畑づくりやサツマイモづくりをする機会をもつことができました。また隣接する西小学校の生徒と一緒に遊んだり、お互いに行事を通して交流したり、園児や生徒が互いに参加し合うことで、小学校と顔の見える交流ができ、園児と地域の方、生徒、小学校教諭との関わりが身近なものになりました。

【課題】

- ・主体的な学びの場の環境や保育者の援助など、保育者の役割について職員間で研鑽し合い、保育の質の向上を図っていく。
- ・子ども一人一人の学びの場を保障していくインクルーシブ教育・保育を子どもの思いや発達に寄り添ったより良い保育を、様々な職種の職員の意見を交換しながら考えていく。
- ・日々の教育・保育の内容を園だよりやクラスだより、ドキュメンテーション等を使い保護者に伝え、子どもの成長や育ちについて相互理解することができるようにする。
- ・地域や小学校の交流だけでなく、児童館にも働きかけ交流を深めていく。



にじいろまつり

【来年度の園経営、教育・保育活動における改善方策】

- ・子どもの主体性や充実感を味わうことができる環境や援助などについて、子どもの学びや育ちを伝え合う時間をつくり、情報共有や全職員の共通理解に努め、よりよい教育・保育の実践につなげていきます。
- ・外国籍児や医療的ケア児、配慮を必要とする子どもも含めたインクルーシブ教育・保育の質の向上を図るため、研修や話し合う時間を確保していきます。
- ・子どもの学びや育ち、園での活動、保育者の子どもとの関わり方などを、ドキュメンテーションや園だより、クラスだよりなどを通して発信していくと同時に、読みやすく見やすくなるよう伝え方の工夫をしたり、保護者からの感想をもらったりして双方の理解が深まるようにしていきます。
- ・地域に開かれた園を目指して、小学校や地域との交流を引き続き行っていきます。教育・保育について、また育ちの連続性を理解してもらうために、園だよりやドキュメンテーション等を地域に発信していきます。



お獅子さんごっこ



ごっこ遊び



にじいろランド